



愛光NEWS

2022年4月

2022（令和4）年 5月 発行
（編集）愛光本部企画室
（TEL）043-484-6391
（メール）<http://www.rc-aikoh.or.jp/>

令和4年4月、法人では、新任職員4名を迎え、気持ちもあらたに新年度が始まりました。今年度も、楽しいことやうれしいことがたくさんある一年となりますように。そんな、願いや期待を抱いて、愛光の各事業所でも、様々な取り組みがスタートしました。

□事業経過など（2022.4.1～）

月/日(曜)	記 事
4/1(金)	辞令交付式
1.4.5	新任職員研修
5(火)	業務執行会議
7(木)	藤子不二雄さん A 死去
10(日)	千葉ロッテ佐々木朗希投手が完全試合達成
13(水)	人材育成 PT
14(木)	採用試験
15(金)	佐倉圏域事業部実績会議
20(水)	地域食堂ともいき（弁当販売）/障害者支援事業部実績会議
21(木)	はちす苑経営改善 PT
23(土)	知床遊覧船沈没事故発生
24(日)	オレンジカフェ
25(月)	高齢者福祉事業部実績会議
27(水)	地域福祉事業部実績会議

■おもな出来事

【辞令交付式】

4月1日、新任職員4名、異動職員8名、雇用変更の職員3名に辞令が交付された。また、1日、4日日、5日の3日間にわたり新任職員研修が行われた。

1日の天気は雨だったので、新しく入職した職員に、「せっかくの日に雨で残念ですね」と話しをすると、その方から「私の心の中は、快晴です」という返事が笑顔とともに返ってきた。

今後仕事をしていく中で、困った時に相談できる仲間をつくり、先輩職員のアドバイスを受け、経験を広げ、成長していただきたい。

■月報から

□スローガン

「今年のルミエールのスローガンは何ですか？」 4月のスタッフ会議で施設長が発した言葉である。『利用者、職員ともに笑顔で支え合う』このスローガンから今年度のルミエールははじまった。スローガン (slogan) とは、企業や団体などが、組織に関する情報、主張や理念、活動目的を短い言葉で表したもので、「標語」「合言葉」を意味するが、大切なことはスローガンを作成することではなくスローガンを浸透させて組織として守ることである。ルミエールの利用者、職員全員が笑顔で支え合うことができるよう一丸となって進んでいきたい。

(ルミエール課長 原 宏之)

□「コロナ禍で始まったご当地スイーツも 19 県制覇」

コロナ禍では外出も自粛しているなか、旅行はいつ再開するか不透明なままだったため、代替りの企画を考えた。令和2年10月から始まった「全国うまいものスイーツ制覇」だ。スタートは、岩手の奥州ポテトであり、宮城の萩の月、群馬のだるま焼、茨城の干し芋、愛知のカエル饅頭、富山の白エビのどくろ煎餅、長崎の半熟カステラ、沖縄のジミークッキー、愛媛のちゅうちゅうゼリー、東京の金魚すくい、秋田のババヘラアイス、岐阜の栗どら焼き、鹿児島のもも餅、千葉のクジラ饅頭、広島のもみじ饅頭、兵庫のゴーフル、京都のあじやもち、岡山の生クリームパンに続いてきて、19県目の今月は福岡の博多通りもんである。

毎月のあおばの会ではスイーツの紹介と説明を行ない、その後は皆さんで堪能する。覚えられない難しい名前もあるが、食べている時だけでも時間旅行をしているような気分になる。

(めいわ課長 李 連淑)

□春の行事

新年度を迎え、恒例のお花見を楽しもうと企画したが、残念ながら雨模様。外には出られず、2階の食堂にて春らしい曲を聴きながら、春にちなんだクイズを楽しんだ。その後はお待ちかねのティータイム。桜茶、ほうじ茶とあまおう苺味のペコちゃんのほっぺを美味しくいただいた。参加しなかった利用者も初めて食べたペコちゃんのほっぺが「すごく美味しい！」と感激。桜の花は見られなくても春を感じられて嬉しかったとの声が多く聞かれた。

(リホープ課長 稲垣 直子)

□新年度が始まる！

新しい仲間が3名加わり、新年度がスタートした。登録者数も42名となり、これまで以上に活気あふれる職場になってきた。また、これまでコロナ不安で約2年通所を控えていた利用者も新年度を機に通所を再開してくれるなど嬉しいニュースもあった。利用者が増えた分、しっかりと作業環境を整えながら安定した作業提供を維持できるよう新規作業開拓も続けていきたい。25日には歓迎会を企画して歓迎者をもてなした。今回は一口サイズのケーキを何種類か用意して“ケーキバイキング”で楽しんでもらった。その後は歓迎者からの挨拶や皆からの質問コーナーなどで大いに盛り上がり、にぎやかな歓迎会となった。

(佐倉市よもぎの園 近藤 真一)

□春の名刺まつり

法人内の職員異動に伴う名刺作成依頼が舞い込む時期だが、外部からの依頼も当然この時期の依頼が最も多い。前年には点字打刻機を導入し、点字名刺の作成依頼にも迅速に対応できるようになった。目下、打刻機の軽快な作動音が終日響いている。

外部名刺については営業を行った際には、とりあえず1~2名というところから始まったものだが、現在では事業所や会社ぐるみで依頼をいただけるようになった。物井駅近くに社屋を構える企業S様、酒々井町の社会福祉法人K様などはその代表格で名刺作成においては上得意様といえる。これらの実績を携え、今年は更に市内の企業、団体へ営業活動を行っていきたい。

(ワークショップかぶらぎ 宮部 和樹)

□新年度の目標、健康維持

3月に新年度の目標設定をするため、入居者4名と面談をおこなった。面談のなかで目標が、「ジョーの家での生活維持」、「安心安全な生活を送りたい」、「気持ちよく生活したい」、「自立した生活を送りたい」と、ジョーの家で、自分なりに楽しんで日々の生活を送っていく本人なりの発言があった。そのため目標には、医師との連携、食事摂取量、服薬内容の確認等も入れさせて頂いた。今年1年、それぞれの目標に近づけるように、健康が維持できるように、世話人と協力して支援していきたい。

(ジョーの家 高橋 健)

□イレギュラーがレギュラーへ

ある利用者Aさんが、この4月からよもぎの園へ通うことになった。根郷通所センターの生活介護へ通所している頃から、就労継続支援B型のよもぎの園へ憧れがあったようで、年度の切り替えを期に移行することとなった。

制度上は就労の経験のない者が学校を卒業後に就労継続支援B型へ通うことが禁止されているため、相談支援事業所アシストの担当者と連絡を取り、3月に就労移行支援事業所へ就労アセスメントを作成してもらうために、2週間ほど通所した。京成臼井駅まで電車で通うため、事前に乗り継ぎの練習等をおこなったが、実際に一人で通った際に予定時間になっても帰らず、行方不明になったハプニングもあった。そんな経験を積んで、はれてよもぎの園へ通うことができるようになった。

4月からよもぎの園へ通い始めて早々、今度は昼食のお弁当を注文するための代金を自分のお小遣いから持っていかなくてはならないが、その昼食代を自動販売機のジュースの購入に使ってしまい、お弁当代が足りなくなってしまうというハプニングも発生した。そこはよもぎの園で立て替えてもらい事なきを得たが、本人は「毎日楽しい!」と答えてくれるため、これから起こりうるハプニングを乗り越え、輝いた未来へ歩んでいってほしいと願っている。

(めいわ通所部主任 高梨 和憲)

□お花見

春になると隣の山王公園が桜色に色づく。入居者の方は交代で職員と共に桜を見に行った。戻ってくる入居者の表情は明るい。頬もピンク色に染まったかのようだ。

1日は『たけのごはん』と『人参しりしり』を味わった。たけのご飯はもち米も加えてもちもち感を出した。しりしりは沖縄で細切りや千切りの意味である。少しのお肉と細切りの人参を炒めてお醤油で味付けしてから卵でまとめる。小鉢ながらもボリューム感満点である。

(はちす苑 管理栄養士 江口 貴子)

□協議体として

昨年、ともいきプロジェクトでは「さくら山王自治会」と共同で、山王住民全世帯を対象にアンケート調査を行った。目的は生活の中での困りごとや不安を明らかにし、地域で必要なことを把握するためである。その結果を受け、自治会や地域の皆さんと話し合いをしながら、地域でできることを考えていくことになった。

今年度は、その話し合いを包括の委託事業である生活支援体制整備事業の協議体として、市にも報告する。現在山王地区は高齢化率38%となり、生活支援、特に買い物が課題となっている。アンケートの中でも様々な意見があった。課題や意見を整理しながら、地域の中で解決できないことは住民の声として市に届けていきたい。

(総合相談センター所長 森 由美子)

□小学生対象「スキップジャンプ」にチャレンジ！

スキップジャンプは、輪っかを足首に装着して、縄跳びよろしく先端を回しながらジャンプするという遊具である。今月はスキップジャンプを続けてどれ位回せるかタイム記録にチャレンジしよう！と掲げた。これまでも貸し出しはしていたが、ちょっとしたコツがあるようで、上手く回すことが出来ない子どもがほとんど。上手く行かないとつまらないので、流行っているあそびではなかった。はたしてうまく子どもたちの心をつかむことができるのだろうか？不安を抱えつつ新年度を迎えると、コロナが収まりつつあるからか、with コロナということからなのか、早々に授業数が増えたのか、小学生がパタリと来なくなった！！別の意味での予想的中！！？？企画倒れかと頭を抱えていた月末。短縮授業で早帰りの子どもたちがどっと来館してきた。「今だ！」とばかりにスキップジャンプを勧めてみると「何？」子どもの反応はいまひとつ。すると一人の児童が「それ、持ってる！」とクルクル上手に跳び始めた。その子を見ていた他の子と一緒に上手く跳べるコツを聞き、いざ実戦！数回チャレンジしていくうちに、ほとんどの子どもたちが上手に跳べるようになった。始めは「見ないで！」と言っていた子どもたちも帰るころには「タイム計って～！」と声をかけてくる。ゆうぎ室のあちこちで一生懸命練習する子どもたちの光景に、シメシメ！と思わずガッツポーズだ。子どもたちにあそびを仕掛ける。そこに上手くはまれば、子どもたちは夢中になってどんどんあそびを広げていく。

児童センターは”あそび”をとおして、子どもたちの健やかな成長を図り、情操を豊かにするための施設だ。大いにあそんで、笑って、考えよう！！

(南部児童センターインストラクター 吉田 知加子)

□根郷学童保育所

4月1日、緊張した様子で登所してくる1年生に、2年生が「名前は?」「荷物はここに置くよ!」などと、よく面倒を見ていた。1、2年生なので、身長差もさほどないが、2年生は前にかがみ、1年生に目線を合わせながら話しかける姿がなんともほほえましく、2年生の歓迎する気持ちがこちらにも伝わってくるほどであった。そんなあたたかい雰囲気の中で過ごすうちに、初めは泣いていた男の子も少しずつ慣れ、笑顔で過ごす姿をみて、2年生の女の子が「〇〇くん最近泣かなくなったね!私も1年生の頃は泣いていたなあ…」と、懐かしそうに話をしていた。女の子も初めての場所は苦手で、寂しくて泣いていたとの事。「みんなが優しくしてくれたし、楽しいからもう泣かないんだ!」と、話す姿を見て、昨年度の2年生の姿を思い出した。大人があればこれしなくても、子どもたちはここで助け合い、親切にしてくれたことは、年下へときちんとなげていることに感動した4月であった。

(学童保育所主任 平野 美幸)

□ 2年ぶり!

「私はマイクいらないよ。みんな聞こえるよね?!」と元気な声で2年ぶりの『ふれあいサロン南部』が始まった。4月はセンターを手話ダンスのグループの活動の場として利用している方にお願ひし、脳トレと手話ダンスを行った。時々笑い声が聞こえ、楽しい時間が久しぶりに流れていたようである。ソーシャルディスタンスを保つように、座布団や椅子などを並べ準備していたが、いつのまにか仲間同士が近くに移動してしまうなんてこともちらほら見えた。おしゃべりも楽しみにしている様子がうかがえる。市の運営方針などを確認しながら、対策をきちんと取り、今後も開催していきたい。

(南部地域福祉センター 小出 博美)

■職員状況(4/30現在)

	人数	前月比
正職員	178	-1
サポート職員	36	1
非常勤職員	157	-6
計	371	-6